

新川崎地区新設小学校基本計画検討委員会
教育理念 WG 第三回議事録（案）

1. 日時 11月19日（火） 9：30～12：00

2. 場所 第4庁舎第4会議室

3. 配布資料

資料 3-1 前回議事録（案）

資料 3-2-1 理科教育の拠点校について検討状況

資料 3-2-2 武蔵野市大野田小学校視察報告

資料 3-3 普通教室廻りの掲示に関するメモ

資料 3-4 普通教室廻りの物量に関するメモ

資料 3-5-1 面積表

資料 3-5-2 諸室の考え方

資料 3-5-3 学年クラスターの考え方

資料 3-6 スケジュール

4. 討議内容

1) 前回議事録の紹介（資料 2-1）

・ 前回 WG（第一回）の議事要旨案について確認を行った。

2) 理科教育の拠点校としての検討について（資料 3-2）

- ・ 新設校で教育課程を作る時に理科を柱として理科を楽しいと思わせるためには、施設面での使いやすさは重要である。センターと理科研が共催しているのは全市の教員の理科教育を推進する側面があるので、学校の教育課程と全市のものを整理する必要がある。どの視点で話をしていくべきか考えていかなければならない。まずは、この学校としての教育課程をどう考えるかという方策を出すとうい。
- ・ 幸区では、年に何回か企業の方が「面白実験」的なイベントを行っている。ただし、一般の教員がそのコーディネートを行うのは難しいので、コーディネーター制度があると現場は大変に助かる。予算や先の見通しも考慮する必要がある。
- ・ 理科支援員は、元理科教員などが地域の方として確保できると大変に素晴らしい環境が整備される。通常は大学生などの場合が多い。

3) 掲示について

- ・ 特別な教育的ニーズのある児童に対しては、教室前面は気になりすぎてしまい、ほとんど貼らない方針としている。
- ・ 現在、学習している内容の前に学習した内容をリマインドとして表示したりするので、可動的な掲示板があるとよい。
- ・ 習字のある学年は、2 週間に 1 回程度、新しい作品を作っているの、ほぼ一年間

通じて貼られることになる。

- クリアファイル的な掲示フォルダー（透明のファイルのコーナー）も通年を通じて貼られることが多い。習字と掲示フォルダーでほぼ後ろは使われている。
- 大きな絵の作品を作った時には苦肉の策で様々なところに貼るが、掲示期間が短いので、そこに縛られる必要はない。
- 学年の掲示板は低学年ではあまり使用されず、高学年の委員会活動で活用されることがある。
- 絵画は学年でまとめて貼ることも可能である。
- 平面的な掲示だけでなく、立体的な造形物（粘土など）についても考慮する必要がある。背面ロッカーの上だけでは通常は足りない。
- 長期休業明けがピークになるのは資料の通り。そのような短期的な大規模な掲示を可変的な掲示板にて賄えることが必要である。
- 子どもたちの鑑賞という意味では、本来低い場所に貼るべきであるが、教室の設えによってはできないことがある。
- 異物混入の視点から、給食配膳場所付近では画鋏を使わないことをルールとしていることもある。
- 画鋏だけではなく、マグネットも使用できる掲示板もある。

4) 収納について

- 机の中の半分は道具。1年生等は道具箱（のり、はさみ、ホチキス等）というものを持っており、物持ちがよければ6年間使える。普通教室で図工を行う上でのりやはさみを常備しておくことは必要となる。低学年では粘土、粘土板をロッカーに保管していることもある。
- 1年生は算数ブロック、折り紙なども机の中にいれている。
- 絵の具や鍵盤ハーモニカ等は先生によって、ロッカーにいれたり、まとめて入れたり色々である。
- 鍵盤ハーモニカをロッカーに入れると飛び出るので危ない。この飛び出しがない収納家具があるとよい。
- リコーダーは机の横にかける場合が多い。
- 裁縫道具、理科セット、科学工作キットなどが短期的に出てくる。
- 子どもの持ち物を多く収納できるように背面ロッカーを大きくすることを望む学校があるが、ロッカー自体が高くなるので低学年は使い難いという意見もある。また奥行きを広くすると教室自体が狭くなってしまうことがある。
- 算数ブロック等はブロック一個一個に名前を書かないといけないので、学校物品として購入しておき教材庫から持ってくる方が望ましい。
- ロッカーは最低限、ランドセル＋アルファとして、大物の道具箱や楽器はまとめて収納するスペースがあると望ましい。

5) 諸室の考え方について

① 図工室

- 電動のこぎりは大変、重いので固定されてしまっても使いやすい。その場合は、1台1台の設置間隔が多少必要となる。1クラスとして4～6台程度。
- 電動のこぎりは先生の目の届くところで作業するのが必須。立ち作業でも構わない。
- 絵画であれば図工室への移動時間を考慮し普通教室で授業を行うので、図工室を使って授業を行うのは木工、版画などになる。安全面に関して教員が1人で対応することを考慮する必要がある。

② 家庭科室

- 従来式であると、調理と配膳、食事の活動の区分がつけづらい。その点では分離型がよい。
- さくら小学校を見て、分離型がよいと思った。水道のすぐ下にコンセントがあるのは危険なため、留意する必要がある。
- 調理台分離はよいと思うが、一人一調理が今後の方針であるため、6台のコンロでは少ないかもしれない。
- 準備室を分離せず、一体とすることでもう少しコンロ数を増やせる（事務局）。

③ 生活科室

- 生活科室では、低学年が昔のコマ等の遊びをしたりすることを考えると収納は必要である。
- ホワイトボード等もある方がよい。使い方次第であるが、机・椅子が並ぶ可能性もある。

④ 国際理解教室

- 外国語の授業は、今後、低学年に対しても基本的な単元が設けられる方向となる（事務局）。
- 小上がりの舞台等があれば外国語だけでなく、多目的に活用できる。
- 外国語の勉強が主な目的であると思うが、外国語教室でも良いのではないか。
→ 外国語だけでなく、多目的な活用も意図しているためである（事務局）。
→ 国際理解教室という表現はやや古いかもしれない。すでに国際化は進んだことが社会の前提となっている。

⑤ 音楽室

- 発表する時に、少し台に上がるだけでも、子どもたちの意識が高まるので、小上がりの舞台があるとよい。
- 専科教員の準備室としてはやや広いかもしれない。練習室でも準備はできるので、常に不足しぎみの楽器庫を大きくした方がよいかもしれない。

⑥ メディアセンター

- タブレット等が入ってきた時に、どのような学びが行われるのかまだ誰にも具体的なイメージができていない。ソファなどがあるイメージなのか、シンプルに普通の教室的な方がよいのか。憧れの学びの場となってほしい。メディアセンターは図書室ではないと思う。
- 準備室管理だと管理しやすいが、置かれているから使われるということもある。今後は普通教室廻りでタブレットを利用する方向は間違いないと思われる。図書とパソコンを別々のクラスで使用することが難しいので、各クラスの教室の配当に配慮が必要となる。
- タブレットやノートパソコンを貸出して使うという考えは良いが、パソコンが常時置かれていることで使うこともあると思う。
- 図書室に読み聞かせの暖かいコーナーがあるのは、雰囲気としてよい。
- 専科教員がつくのかどうかは不明確であり、そうでない場合は担任の管理になる。

⑦普通教室廻りの確認

- ICTについては、今後、もう少し詰める必要がある。
- バルコニーは環境性能の面、観察活動の観点から安全面に配慮し設置をしていきたい。

以上